

報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



得度披露記念 事業計画のお知らせ

新たに仏道を歩もうとする者のことを「新発意」と言います。昔から浄土真宗では特に将来住職になろうとする者のことを「しんぼちさん」「しんぼつあん」



(上)左建物が雨漏りなどで悩まされている庫裏です。屋根を修理したとしても今後の使用方法に課題があり、事業実行委員会で建て替えを検討しています。
(下)6年前の夏、得度直後の新発意の写真です。



新発意と呼ばれた者は育てられやがて住職となり、また新たに次世代の新発意を育ててきたのです。

この度、新発意が大学を卒業し一般企業に就職して社会経験を積むこととなったのですが、将来の住職としての気持ちを新たにしたい。現在の妙徳寺の懸案事項である門信徒会館整備、本堂等修繕なども検討しており、次世代寺院活動の財産となるような事業を同時に進めて参りたいと思います。

今年の報恩講には新発意が帰郷してお参りし挨拶する予定としております。同時に今事業の趣意書と懇志依頼書をお渡ししたいと考えています。報恩講にお参りいただけたら皆様の手には後日郵送にてご依頼申し上げます。

詳細はこれからお渡しいたします趣意書をご覧くださいますが、この事業計画について篤いご理解と協力を賜りたく、ぜひ報恩講にお参りいただきたいと思っております。

「聞法・聴聞」 いたしましよん

「聞法」とは仏法を聞くという意味で、浄土真宗では「聴聞」ともいいます。「聴」も「聞」も同じ「き」という文字ですが、じつは「聴」は「き」の音が「聴」に聞こえているのが「聞」、つまりいろいろな聞き方で仏法に出あっているのだという事です。



す。一方でこの地面の下の見えなるところで受動的に多くのものを受け入れ続けている根っこがあること

「生」の字の成り立ちは地面に生える植物の象形文字で、前を向いて伸び行く姿、目に見える部分の能動的な姿でありま

とを忘れてはなりません。見えていない根があるからこそ、見える部分は伸び行くことができます。聴聞とはこの根を育てる努力です。仏さまや他者の気持ちを受け止める根が育てば、能動的に考え自律的に行動す



ライン登録のお願い

寺報では対応できない、急な予定変更をすぐにお知らせするためにライン登録を



このQRコードを読み込むか、@985fghgyを検索してください

行事予定

る力も育ちます。乳幼児期のみなならず、大人であっても「聴聞、聞法」の効用によって生きる力を養い、私

である「しんぼちさん」がで

十一月二十五日(月)午前九時、午後一時

報恩講(おとしこ・ほうおんこう)

講師 当山住職自動
十一月二十四日(日)午後二時より 報恩講前日準備
お手伝いよろしくお願ひします

新発意得度披露記念

・門信徒会館整備事業計画説明会
新発意あいさつ、趣意書と事業説明を予定しています

十二月二十五日(水)午後二時から一時間
年末お掃除

大晦日 午後十一時半から
除夜会(じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半
修正会(しゅうしよつえ)

一月九日(木)午前九時、午後一時

御正忌法要(おたんや)

講師 当山住職自動

一語法話

親鸞さまは正信念仏偈の中で、釈尊が阿弥陀さまの



撰取の心光つねに照護したもう

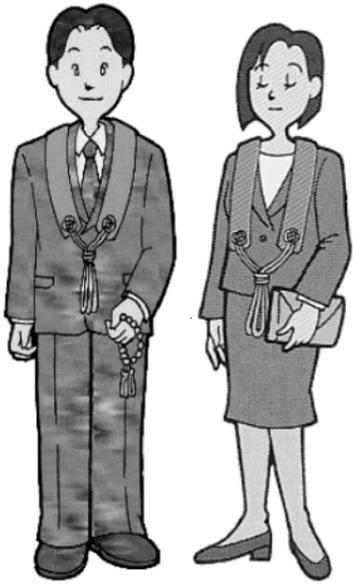
撰取心光常照護 已能雖破無明闇 貪愛瞋憎之雲霧

常に真実心の天に覆えり 譬へは日光、雲霧に覆われども

仏事作法⑥ 寺参りについて

今回は寺参りの作法を書

前回書いたとおり、浄土 真宗のお寺は仏さまのお話



(上)式章を着用したイラストです。お寺の行事ではもっと



喚鐘が始まる前、 本堂横の帳場にお寄

それ以外からないことが

くそばに親鸞さまの御影 (お姿の掛け軸)を、さらに

お寺では法座と法座以外

① 喚鐘(行事の始まりを

なかつたり、聞

法座にご持参いただく物

「若しこの書を見聞せん

自分自身のことを考えて

煩悩がはたらいでも問題

てお護りくださる。すでに

と書かれています。

合同墓・墓地案内

妙徳寺ホームページ http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/

志和組テレホン法話「みのりの電話」 082-433-4989

「写経の会」 10月25日(金) 11月15日(金) 12月6日(金)

「書道教室」 ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載